

7.

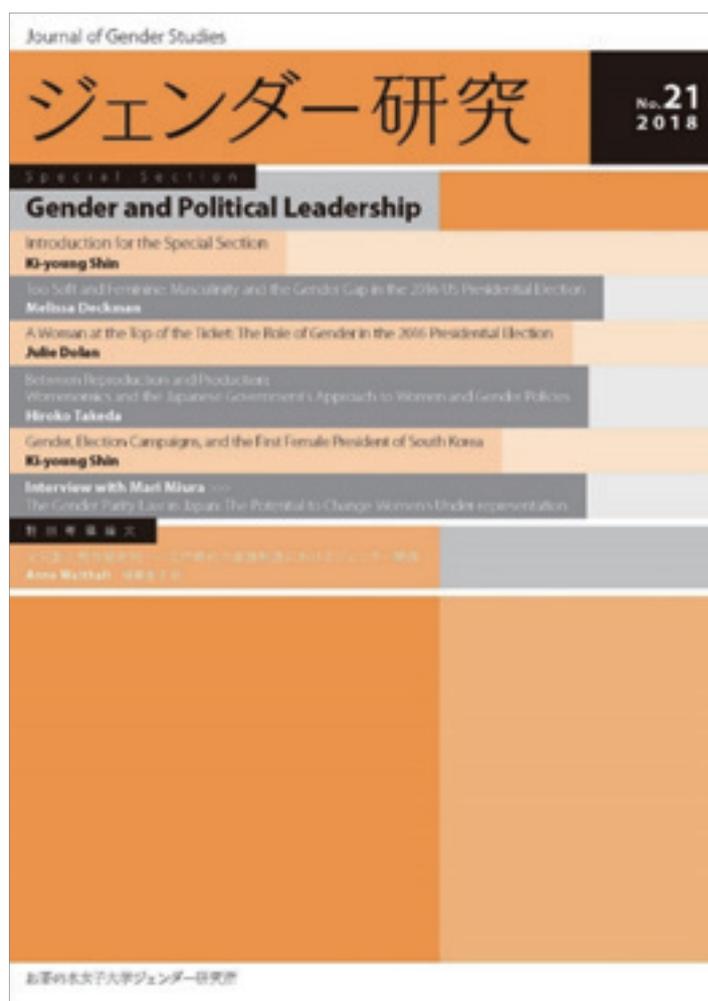
学術成果の発信

- 1) 学術雑誌『ジェンダー研究』
- 2) プロジェクト報告書
IGS Project Series による
成果刊行

1) 学術雑誌『ジェンダー研究』

国内外の執筆者による最新の優れたジェンダー研究の成果を世界に発信

国際的な学術誌として刷新



本研究所が編集・発行している査読付きの国際学術雑誌。前身は『女性文化資料館報』（1979～1987年）、『女性文化研究センター年報』（1988～1996年）で、ジェンダー研究センターの創設に伴い、1998年3月に第1号として創刊された『年報ジェンダー研究』を引き継ぐ年刊誌である。

本誌は特集論文、特別寄稿論文、投稿論文、書評から構成される。巻頭に掲載される特集論文はその年に特に注目されたジェンダー関連のテーマについて世界第1級のジェンダー学研究者が執筆し、外部評価を得た論文で組まれており、学術研究としての寄与も大きい。特別寄稿論文は、編集部によるオリジナル企画として、学際的・国際的なジェンダー研究の成果を世に問う論文を掲載している。投稿論文は、国内外から投稿された日本語もしくは英語の論文で、国際的に活躍する研究者による外部審査を経て採用された質の高い論文である。書評も近年ジェンダー関連分野で注目された著書をジェンダー関連の諸分野の研究者が評しており、ジェンダー研究の動向を示すものである。

■『ジェンダー研究』21号（2018年6月刊行）概要

特集「Gender and Political Leadership」

『ジェンダー研究』21号は2017年3月18日（土）に本学で開催されたIGS国際シンポジウム『なぜアメリカで女性大統領は誕生しなかったのか？：ジェンダーと多様性から考える2016年大統領選挙』での議論を基礎にして特集を組んだ。

「序——Introduction for the Special Section」(Ki-young Shin)に続いて、「Too Soft and Feminine: Masculinity and the Gender Gap in the 2016 US Presidential Election」(Melissa Deckman)、「A Woman at the Top of the Ticket: The Role of Gender in the 2016 Presidential Election」(Julie Dolan)、「Between Reproduction and Production: Womenomics and the Japanese Government's Approach to Women and Gender Policies」(Hiroko Takeda)、「Gender, Election Campaigns, and the First Female President of South Korea」(Ki-young Shin)の5本を掲載し、最後に「The Gender Parity Law in Japan. The Potential to Change Women's Under-representation」と題して、Mari Miura氏へのインタビューを収録している。

Deckman氏、Dolan氏、Takeda氏は、2016年11月に行われたアメリカ大統領選で、「史上初の女性大統領」の誕生はなぜ実現しなかったのかについてジェンダー視点から切り込み、Takeda氏は安倍政権における日本におけるジェンダー政策を分析、Shin氏は韓国の大統領選挙におけるジェンダー・ポリティクスについて分析している。

また、特別寄稿には、2015年11月～2016年1月まで、当研究所に特別招聘教授として在籍した日本近代史・女性史の専門家であるAnne Walthall氏の「父兄訓と男性間差別——江戸時代の家族制度におけるジェンダー関係」を掲載した。これは在籍期間中に取り組んだ研究プロジェクト「Faith, Politics, and Affection: A Social History of the Hirata Atsutane Family (信仰、政治、愛情：平田篤胤一家の社会史)」の研究成果をまとめたものである。

投稿論文は、厳正な審査を経て、今号では次の2本を掲載した。「ある在日コリアン二世女性のライフストーリーにおけるジェンダー観の再編——民族・知・パワーとのダイナミズム」(猿橋順子・柳蓮淑)は、在日コリアン二世への語りから、一世によって実践されている韓国の文化と日本の社会規範の間で、アイデンティティや経済的自立に影響をうけたジェンダー観の再編を分析した。「寺山修二「大山デブコの犯罪」——1960年代アングラ演劇におけるジェンダー化された男性の身体表象を巡って」(久保陽子)は、1960年代に興ったアングラ演劇の中でも「大山デブコの犯罪」に焦点を絞って、男女の身体をジェンダー化された存在として表象分析した。

書評は今号から大幅に掲載本数を増やし、金井郁氏、菊地夏野氏、岩本美砂子氏、ホーン川嶋瑤子氏、山本千晶氏、田村哲樹氏、森明子氏、皆川満寿美氏、鳥山純子氏、林美子氏、稲田尚子氏によって評された11本の書評を収録した。人文科学・社会科学・自然科学領域に至るまでの幅広いフェミニズム、ジェンダー学の先端動向を紹介できた。

刷新した国際学術誌にふさわしく、多彩な執筆陣によって、最先端のジェンダー論が提供されている。

『ジェンダー研究』21号（2018年6月刊行）目次

巻頭言：『ジェンダー研究』21号の刊行によせて 申琪榮

特集：Gender and Political Leadership

Introduction for the Special Section Ki-young Shin

Too Soft and Feminine: Masculinity and the Gender Gap in the
2016 US Presidential Election Melissa Deckman

A Woman at the Top of the Ticket: The Role of Gender in the
2016 presidential Election Julie Dolan

Between Reproduction and Production: Womenomics and the
Japanese Government's Approach to Women and Gender Policies Hiroko Takeda

Gender, Election Campaigns, and the First Female President in South Korea Ki-young Shin

Interview with Mari Miura :

The Gender Parity Law in Japan: The Potential to Change Women's Under-representation

特別寄稿論文

父兄訓と男性間差別——江戸時代の家族制度におけるジェンダー関係 Anne Walthall
翻訳 福重恵子、監訳 神田由築

投稿論文

ある在日コリアン二世女性のライフストーリーにおける
ジェンダー観の再編——民族・知・パワーとのダイナミズム 猿橋順子、柳蓮淑

寺山修司「大山デブコの犯罪」——1960年代アングラ演劇
におけるジェンダー化された男性の身体表象をめぐって 久保陽子

書評

Julie A. Nelson 著

Gender and Risk-Taking: Economics, Evidence, and Why the Answer Matters 金井郁

関口すみ子著

近代日本 公娼制の政治過程 「新しい男」をめぐる攻防 菊地夏野

三浦まり編著

日本の女性議員 どうすれば増えるのか 岩本美砂子

村田晶子・弓削尚子編著

なぜジェンダー教育を大学でおこなうのか 日本と海外の比較から考える ホーン川嶋瑤子

佐藤文香・伊藤るり編

ジェンダー研究を継承する 山本千晶

衛藤幹子著

政治学の批判的構想 ジェンダーからの接近 田村哲樹

西山千恵子・柘植あづみ編著

文科省／高校 「妊活」教材の嘘 森明子

鹿嶋敬著

男女平等は進化したか 男女共同参画基本計画の策定、施策の監視から 皆川満寿美

Kevin Gray, Hassan Bashir, and Stephen Keck 編

Western Higher Education in Asia and The Middle East. Politics, Economics, and Pedagogy 鳥山純子

上間陽子著

裸足で逃げる 沖縄の夜の街の少女たち 林美子

デビ・ブラウン著／村山光子・吉野智子訳

アスピーガールの心と体を守る性のルール 稲田尚子

編集方針・投稿規定

編集後記

■『ジェンダー研究』21号（2018年6月刊行）編集委員会

編集委員長

申 琪榮 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

編集委員

石井クンツ 昌子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所、基幹研究院人間科学系

足立 眞理子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

天野 知香 お茶の水女子大学基幹研究院文化科学系

水野 勲 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

森 義仁 お茶の水女子大学基幹研究院自然・応用科学系

Karen Ann Shire お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所／
ドイツ デュースブルグ・エッセン大学 教授

荒木 美奈子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

石丸 径一郎 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

倉光 ミナ子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

学外編集委員

三浦 まり 上智大学法学部

金井 郁 埼玉大学経済学部

小浜 正子 日本大学文理学部

編集事務局

佐野 潤子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

仙波 由加里 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

和田 容子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

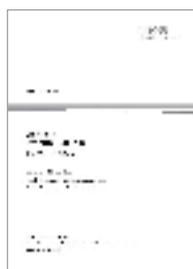
2) プロジェクト報告書 IGS Project Series による成果刊行

2018年度は、成果発信シリーズ IGS Project Series を1冊刊行した。「東アジアにおけるジェンダーと政治」のブックレットシリーズの第1巻となる当該報告書には、2015年度開催の複数のシンポジウム・セミナーにおける、台湾のジェンダークォータ制度についての議論が日英のバイリンガルでまとめられている。年度内に実施された他のシンポジウムや、特別招聘教授プロジェクトの成果の取りまとめも進められており、引き続き、事業成果の国際的発信に努めたい。なお、グローバルリーダーシップ研究所との共同で開催した、グローバル女性リーダー育成研究機構主催の国際シンポジウム(2018年度2回開催)の報告書については、このシリーズとは別の形態で刊行されている。



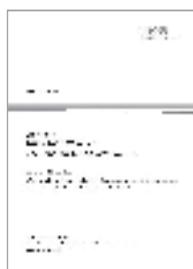
IGS Project Series 20

「東アジアにおけるジェンダーと政治」 Booklet Series 1
台湾におけるジェンダークォータ



IGS Project Series 21

国際シンポジウム
アラブ世界の女性と逸脱：グッドとバッドの境界で
(2019年秋刊行予定)



IGS Project Series 22

国際シンポジウム
議員になれるのは誰なのか？
フランスの政治と議会史からみる立法府のジェンダー化
(2019年夏刊行予定)



IGS Project Series 23

特別招聘教授プロジェクト特集
デルフィーヌ・ガルディ
(2019年夏刊行予定)